

Ibaraki Association of Architects & Building Engineers

けんちく茨城

No. 77 November, 2011

[特集]

「3.11 東日本大震災」第2弾

復興への一歩

6つのプロジェクト報告

[建築作品紹介]

つくば市葛城地区公園管理棟



社団法人
茨城県建築士会

目次

[インタビュー]	水戸市長 高橋 靖氏にきく	1
[特集]	復興への一歩	
	① 五浦六角堂再建支援プロジェクト	2
	② 「安心・安全な木造住宅」プロジェクトチーム	8
	③ 県住宅課長にきく	10
	④ 構造設計者のつぶやき	12
	⑤ 女性部報告 メッセージ入り縁台を家族でつくって、東北の地へ。	14
	⑥ 青年部報告 「段ボールハウス」が子どもたちの未来にもたらすもの	16
[シリーズ]	先輩会員を訪ねて 山田 博通氏、三上 昭紀氏 インタビュー	17
[建築作品紹介]	つくば市葛城地区公園管理棟	18
[報告]	茨城県建築士会・茨城県建築士事務所協会合同開催 「大納涼会」開催される!	20
[会員委員会]	第21回チャリティーゴルフ大会開催される	22
[青年部報告]	大接戦を制して県央支部Aチームが優勝! 第35回青年部ソフトボール大会(県大会)	23

会報 **けんちく茨城**

2011年11月 第77号

発行 平成23年11月10日(年3回発行)

次回発行 平成24年2月7日予定

発行部数 2,700部

発行所 社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸

〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F

TEL.029-305-0329 FAX.029-305-0330

Eメール kyy05413@nifty.com

編集 情報・広報委員会

デザイン 有限会社平井情報デザイン室

印刷所 株式会社あけぼの印刷社

題字 **橋本 昌** 茨城県知事

表紙写真 **つくば市葛城地区公園管理棟**

設計・監理 (株)河野正博建築設計事務所

所在地 茨城県つくば市

敷地面積 73,271.3㎡

延床面積 182.25㎡

建築面積 155.12㎡

構造・規模 RC造・平屋建

竣工 2010年3月

水戸への郷土愛は、 誰にも負けません。

水戸市長
高橋 靖氏



本会顧問であり、6月より水戸市長となられた高橋靖氏にお話を伺いました。

——市長が掲げる「先進都市・水戸」を目指して最も重要なことはどのようなことですか。

まちの躍動は、市民の皆様がいきいきと活動することによって生まれます。その活動の前提となるのが、「市民の働く場」と「暮らしの場」の確保です。

まちの活性化策を通して、地方ができる経済・雇用対策をしっかり立ち上げ、「安心して働くことができるのは水戸」と言われるように、農商工が連携し、あらゆる分野の産業経済を発展させていかなければなりません。そのためにも、周辺市町村との連携協力のもと、強力な水戸都市圏を創造していくことが必要不可欠です。

その核となるのが水戸市であるという誇りと自負心を持ち、政治経済はもちろん、教育、文化、福祉、医療、雇用など、あらゆる分野で茨城の先進的な役割を果たし、人々が躍動できる水戸を目指します。

——被災した水戸市庁舎の再建など復興計画の具体策はどのようなことですか。

このたびの東日本大震災により、市役所本庁舎が使用不能となりました。現在、緊急的な対応として、市役所機能を15か所に分散して業務を行っており、市民サービスに支障を来している状況にあります。

このような状況を解消するため、市役所機能を県三の丸庁舎敷地内と市役所駐車場内との2か所に集約することにいたしました。

県三の丸庁舎敷地の使用については、私の市長就任直後に橋本知事から承諾をいただいたところであり、年内にも市民サービス機能を集約化した臨時庁舎を建設し、市民窓口の一本化を図ってまいります。

また、市役所駐車場内へも臨時庁舎を整備することで、庁舎の臨時体制を確立し、市民の皆様の利便性の向上に努めてまいります。

なお、市役所本庁舎の再建については、今年度実施する市民1万人アンケートの結果や様々な分野の方々からの意見等を踏まえ、任期中までにある一定の方針・方向性を示したいと考えています。

——政治信念、座右の銘など活力の源はどのようなことですか。

生まれ育ったこのまち、お世話になった水戸市に恩返しをしたいという強い思いから政治の道を歩んできました。常に考えてきたことは、水戸の発展と市民福祉の向上であり、水戸への郷土愛と水戸のまちを少しでも良くしたいという情熱は、誰にも負けないつもりです。

現在、若者や子育て世代、高齢者などが、それぞれに生活や将来に不安を感じながら暮らしており、その不安を解消し、将来にわたっての「安心」に変えていくことが、政治に求められる役割であり、私の責務と考えております。

——建築士会の顧問として、会員に向けてメッセージをお願いします。

21世紀のまちづくりは多種多様かつ複雑に変化しており、建築士会の皆様におかれましても、意識改革や知識の向上、そして、さらなる技術の研鑽が求められております。

現状は大変厳しい状況であると認識しておりますが、私は会員の皆様の英智を結集すれば、必ずやこの難局を乗り越えられると信じております。

今回の大震災により、本市におきましても甚大な被害を受けました。水戸のまちの復旧・復興、そして安心安全な住環境の整備のためには、建築士会の皆様方のお力添えが必要不可欠であります。

本市といたしましても、建築士会の皆様をはじめ、市民と行政がお互いに手を携えて協働し、一体となつて、まちの復興に取り組んでまいりたいと考えておりますので、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(聞き手=情報・広報委員会)



復興への
一歩 ①

五浦六角堂 再建支援プロジェクト

東日本大震災発生から、約8ヵ月が経過しました。
創立60周年記念号となった前号では、
地震発生直後から精力的に応急危険度判定活動に携わる
本会会員の姿をお伝えしましたが、
その後も茨城県建築士会では、
各プロジェクト、委員会ごとに
被災地復興に向けた意義ある活動を続けています。
それぞれの会員による「復興への一歩」の記録を
前号に続く特集の第2弾としてお届けします。
まずは、「五浦六角堂」再建支援活動の報告から――。



報告

若柳 綾子 (本会五浦六角堂再建支援委員会)

撮影・資料提供

齋藤 勝男 (茨城大学 学術企画部社会連携課)

茨城県建築士会五浦六角堂再建支援委員会

市毛 純一 (リーダー) / 菊池 均

藤井 耕市 / 三澤 俊介 / 佐川 武男

若柳 綾子 / 加藤 誠洋



昭和24年7月24日に撮影された六角堂。
写真提供：北茨城市 伊藤弘氏

六角堂流失前、流失後



①流失前の六角堂。昭和38年に建て替えられたもので、明治38年の創建時の仕様と異なる部分があつた ②流失後。土台を残して、建物すべてが波にさらわれてしまった

すでに皆さまご承知のとおり、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波によって、北茨城市五浦にある国登録有形文化財「五浦六角堂」が、土台部分だけを残して完全に流失してしまいました。

茨城県建築士会では、この六角堂の再建に向けて、「五浦六角堂再建支援委員会」を設置。管理者である茨城大学および北茨城市との合同会議を開催し、建築に関する専門知識と技術を提供することで全面的な協力を果たしました。

以下にその経緯についてご報告します。

耐震性能は満たしていた。

「五浦六角堂」は、明治38年(1905年)に岡倉天心の設計によって建てられました。天心の住居敷地の一角、太平洋に張り出した岩盤の上に建つ赤い六角形の建物で、海側の四面(もとは三面といわれる)に中棧のない総ガラスの引き違い窓をめぐらせた三坪の堂は、「観瀾亭」と名付けられ、天心はここで思想にふけつたといわれます。

築後およそ50年が経過した昭和30年(1955年)

からは、茨城大学「五浦美術文化研究所」として、同敷地内にある「岡倉天心旧居(研究室)」および「長屋門(管理舎・陳列館)」とともに茨城大学によって管理・運営されています。

震災による六角堂の遺失に対し、茨城大学の池田幸雄学長は、すぐさま再建を目指す緊急方針を決定、5月9日には「岡倉天心記念六角堂等復興基金」を設立し、再建計画に着手しました。

じつは、茨城大学では、昨年度の1月に六角堂の耐震診断を実施しており、その際に建物の詳細な現況図を作成済みでした(耐震診断および図面作成を担当したのが、私が代表を務める若柳建築事務所でした)。

耐震診断は、六角堂のほか、同敷地内の岡倉天心旧居および長屋門についても実施し、その結果、六角堂以外の2棟は、柱や土台の劣化が大きく、構造上の強度も現在の基準には満たず補強計画を提案しましたが、六角堂については、基準の $Iwo = 1.0$ を超えており、耐震性能を満たしていました。

しかし、残念ながら10メートルを超える巨大な津波に耐えることはできませんでした。



①海から引き揚げた瓦を六角堂の土台のある場所まで引き上げる ②ダイバーの後ろに見えるのが警戒船。2回目は広域を調査した ③土台から調査を見守る茨城大学スタッフ ④海底から発見された水晶の六角柱。建物のどこかに納められていたものと推測される ⑤指示を出す茨城大学の三輪特命教授 ⑥一枚一枚瓦を引き上げ、手渡す ⑦3回目は岸の近くをボート2艘で調査 ⑧4回の海底調査で、宝珠半分、平瓦74枚、棟瓦13枚、棟下瓦92枚、ガラス一部、水晶（六角柱）が発見された。

創建時の姿を目指す。

津波による流失後、この現況図に沿って再建を進める方法もありました。しかし、昭和38年（1963年）に再建された流失前の六角堂は、たび重なる改修により、岡倉天心が明治38年（1905年）に自ら設計して建築した当時の姿とは、だいぶ異なっていることが判明していました。土台以外のすべてがなくなってしまった現在、目指すべき姿が、流失前のものでないことは明らかでした。

しかし、ここで問題となるのが、創建時の設計図や当時の資料などが、まったくと言っていいほど残されていないことでした。

創建時の姿を目指すにあたっては、地域の特性などを鑑み上で、証言・資料を収集し、時代考証、技術の検証をすることが要となります。この作業には、茨城県建築士会の力が不可欠ということで、茨城大学からの協力要請を受け、茨城

県建築士会では、6月18日に「五浦六角堂再建支援委員会」を設置、本会会員が有する専門能力や知識、技術等は無償で提供し、再建に向けての全面的な協力を行うことを決定しました。

熱のこもった論議を経て。

7月7日、7月20日、8月22日、9月13日の全4回に渡り合同会議が開催され、宮大工の棟梁や瓦製造者などの協力を仰ぎながら、茨城大学の再建チーム及び北茨城市の文化財担当者とともに、六角堂再建計画をまとめ上げました。

この合同会議の席には、つねに貴重な資料、新たな証言が持ち寄られ、前回までの考証を見直すこともしばしばでした。時間が限られているからこそ、参加者全員が集中して熱のこもった意見交換をし、六角堂創建時の姿を再現するための確かな判断を、スピーディーにくだしていくこと



① 鬼瓦の見本を手に説明する佐川委員 ② 左から、本会柴会長、茨城大学三輪教授、五浦美術文化研究所 小泉副所長、手前が茨城大学齋藤課長 ③ 宝珠の模型を披露する増田氏 ④ ベンガラ塗りの成分による色の違いを説明する菊池委員 ⑤ 茨城大学との初回打ち合わせ。無償での全面的な協力を約束 ⑥ 佐川委員は、自らの工房で現寸大の屋根の模型を製作 ⑦ 左から、小泉氏、茨城大学施設課長 小沢氏、本会若柳委員、製図担当の若柳建築事務所 三輪氏

ができたと思います。

来年3月には完成予定。

合同会議を経て、決定した六角堂復興の基本方針は次のとおりです。

1. 明治38年(1905年)の創建当初の復元を目指す。
2. 瓦は、昭和38年(1963年)の改修工事で棧瓦(9寸幅)に葺き替えられたが、明治38年の本瓦(8寸幅)で復元する。
3. 昭和38年の改修で変更された南側の出窓は、記録等を検討して当初のものに戻す。
4. 昭和38年の改修で撤去された中央の六角形の炉を再現する。
5. 床仕上は、畳ではなく「板張り」とし、天井と同じ張り方とする。
6. 窓ガラスは、当時の製法による再現を試みる。
7. 建物全体の彩色は、明治38年当時のベンガラ

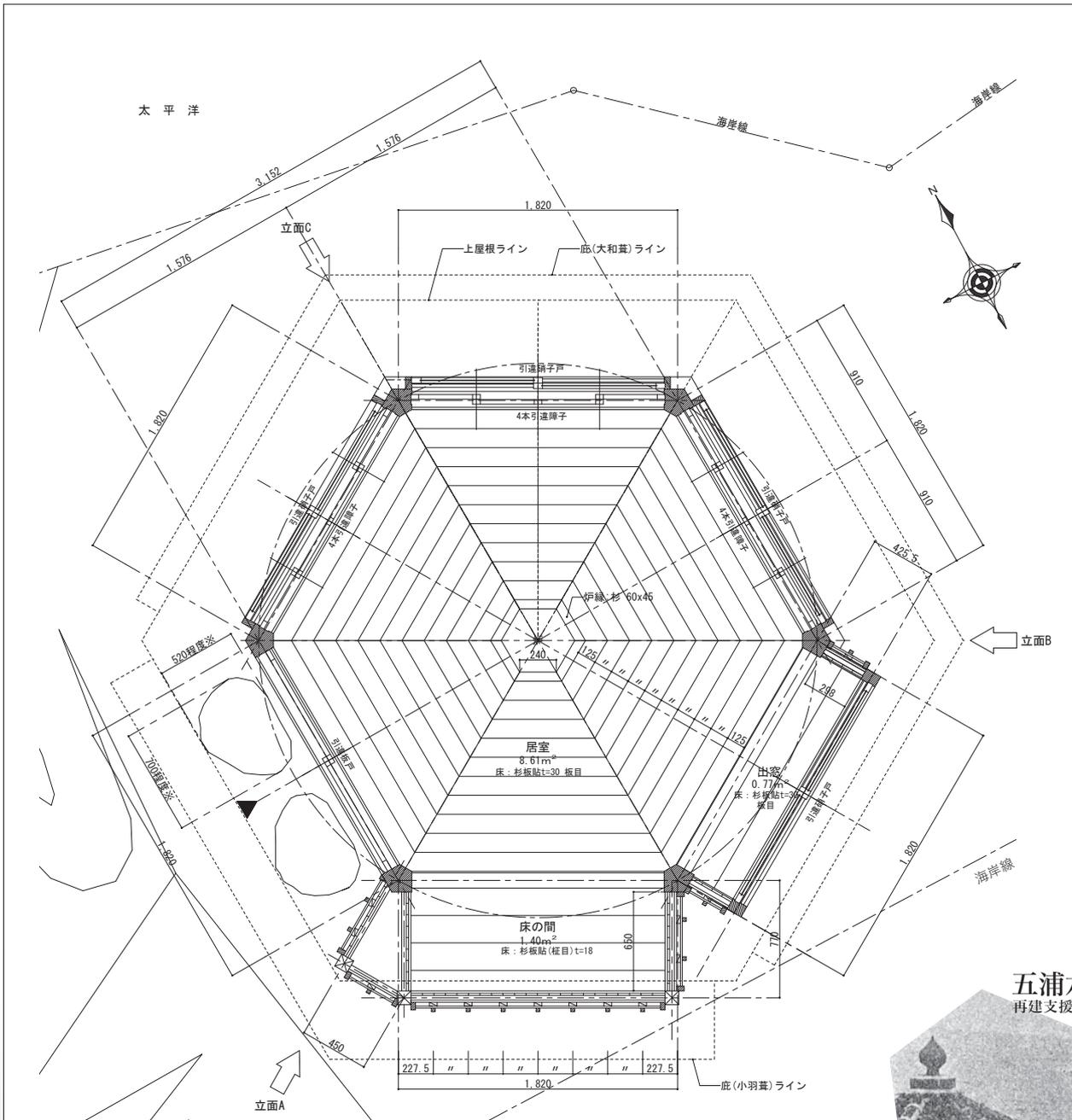
彩色を研究して実施する。

8. 露盤の宝珠は、海中探査により収集した破片が創建当初のものと推定されるが、損傷が著しく、現在東京藝術大学で3Dスキャンを行い復元作業を実施中。その後実寸模型を作成し、完成させる。

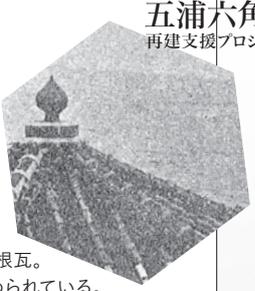
ほぼ2カ月間という短期間で、このような有意義な結果をまとめられたのは、なにより、地震から1年以内に必ず創建時の姿を復活させるのだという出席者の覚悟、使命感があったからこそと言えます。

ここでまとめられた再建計画に基づき、設計図を若柳建築事務所で作成。11月下旬には着工します。

来年の3月には、「創建時に限りなく近い姿」の六角堂が、五浦の海を目前に望むかの地に颯爽と蘇る予定です。

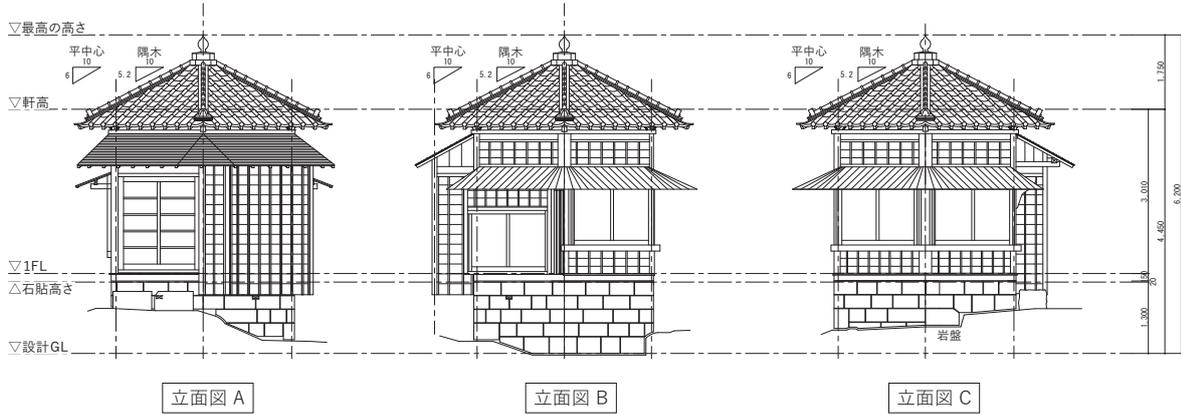


平面詳細図



五浦六角堂
再建支援プロジェクト

昭和17年に撮影された六角堂の屋根瓦。
この写真をもとに屋根の復元が進められている。



立面図 A

立面図 B

立面図 C

茨城大学六角堂復元特命教授 三輪 五十二 氏にきく

「六角堂再建は、必ず強いメッセージになると信じています」

幸か不幸か建物が全部なくなってしまったわけですから、それならば、明治38年の、岡倉天心がつくったものを復元しようということになりました。しかし、当時の資料がほとんど残っていない——。そこで、建築士会の皆さんにご協力いただくことになったわけです。

その前の6月に、まず大学側で4回の海底調査を行いました。最初は近くの海を探索、2回目は大々的に沖合300メートル、幅400メートルの海域を調査。3回目はまた近くで行い、このときは晴天で海が綺麗だったので、100枚ぐらいの瓦があがりました。ほかに、六角柱(右上写真)が出たり、宝珠の一部があがったり。じつは、宝珠だけは明治38年の、創建当時のものなんです。全体を復元すべく、いま東京藝大で3Dスキャンをしているところです。

その後、7月から建築士会の皆さんとの合同会議が始まりました。皆さん、毎回本当に熱心に資料を集めてきてくださって。その熱意にいつも驚かされました。同時に、いろいろなメディ

アを見た一般の方々からも、大学事務局にたくさん電話をいただきました。寄

付や証言、資料、お手伝いの申し出、本当にすごい数で。お陰さまで、創建時の貴重な情報を、短期間で収集することができました。

我々も含め、六角堂を愛する人々の熱意がさらなる熱意を呼び込み、このようなスピード感を持ってプロジェクトを進行することができたのだと思います。悲劇的なことがきっかけではあるけれども、このような仕事に携わることができ、私の人生のなかでも、たいへん大きな意味を持つできごとになりました。

しかし、“これから”です。これから実際の工事が始まるわけですから。六角堂の再建が、必ずや、被災地の皆さんに向けての強いメッセージになると信じ、完成を目指して、さらにこの再建プロジェクトを推し進めていきます。



岡倉天心と六角堂、茨城大学とのかかわりについて

岡倉天心は、思想家であり、また、西洋化の波が押し寄せる明治期に、日本の伝統美術の優れた価値を認め、美術行政家として近代日本美術の発展に大きな功績を残した人物。東京美術学校(現東京藝術大学)の創立に尽力し校長を務めるが、急進的な姿勢が反発を招き、辞職。連袂辞職した橋本雅邦、横山大観らと、明治31年「日本美術院」を創設した。

明治36年、茨城県出身の研究員、飛田周山の案内で五浦を訪れた天心は、この地を気に入り、土地と家屋を購入。昭和38年には、自身の設計により六角堂と邸宅を新築・拡張し、39年には日本美術院を東京から五浦へと移す。これにより、横山大観らも五浦に移り住み、一時は、この地が日本画壇の中心

のような様相を見せた。

その後、天心は、ボストン美術館にかかわり、明治43年(1910年)には同美術館の中国・日本美術部長に就任。アメリカと五浦を往復して活躍したが、大正2年、体調を崩して帰国、50歳の短い生涯を閉じた。

天心の死後は、岡倉天心偉績顕彰会が六角堂を管理していたが、会の理事長の横山大観と、当時の茨城大学学長の東竜太郎の間で移管の話が進み、文部省の了解を経て、昭和30年(1955年)に国へ移管され、以来、茨城大学の研究所として管理・運営されている。





「安心・安全な木造住宅」 プロジェクトチーム



復興への
一歩 ②

茨城県建築士会が行政、資材メーカーと協力し、震災において全壊や大規模半壊の被害を受けた居住困難な被災者や高齢者世帯のために建て替えを支援するプロジェクト

報告：久野 正行（「安心・安全な木造住宅」プロジェクトチーム・リーダー）

建築士にできることは何か？

このプロジェクトは、3月11日に発生した東日本大震災の直後に行われた応急危険度判定や住宅相談による現地調査において、多くの被災者の切なる声を直接聞いたことにより発足しました。被災者でもある多くの建築士が活動をするなかで、誰もが心に感じたのは、「自分に何かできないか」という感情だったと思います。そのようなときに、活動の陣頭指揮を執られていた柴会長の発案により、今回のメンバーが集められました。メンバーの誰もが同じ意識を持ち得ていた事により、事務局を含めその行動は迅速でした。

建築士と建築行政と資材メーカーがひとつに

まずこのプロジェクトの骨子が定められ、「震災において全壊や大規模半壊の被害を受けた居住困難な被災者や高齢者世帯のために建て替えを支援する」ことが決められました。これには、(財)茨城県建築センター、(社)茨城県建築士事務所協会、茨城県設備設計協会、茨城県木材協同組合連合会の協力の下、県及び市町村の建築関係各課を中心とした行政との連携や、各団体の賛助会員を中心とした建築資材メーカーとの供給体制の確立を取り付けました。また、茨城県木材協同組合連合会を通じ、一定額の県産木材供給を県の

工法や地盤対策など 技術的な情報の提供にも 積極的に努めていきます。



茨城県土木部都市局住宅課長
江原 秀明 氏



復興への
一歩 ③



「県営日の出住宅」集会所の復旧工事見学会には、300人が参加。土台から上をジャッキアップ後、コンクリートを充填して基礎天端を嵩上げた。

今年4月に住宅課長に就任された江原秀明氏に、今後の住宅課の主な施策、課題等を伺いました。

的確な住宅セーフティネットの構築のために

本県では住宅施策の基本となる「住生活基本法」に基づき策定した「茨城県住生活基本計画」により、「誰もが安心して暮らせる住まい、まちづくり」「良質な住まいを確保できる住宅市場の環境整備」「地域づくりに資する住まい、まちづくりの誘導」を基本方針に、豊かな住生活の実現を目指した住宅施策を推進しております。

今年度は、少子高齢化に伴う人口の減少、高齢化の急速な進行など社会経済情勢が大きく変化するなか、国の全国計画の改定があり、本県の基本計画についても見直しを進めているところであります。

見直しのポイントは、住宅の耐震性能を満たさないストックが未だに多く存在することや、建築後相当の年数を経た公営住宅が増加するなど住宅ストックの適正な管理と再生が課題となっていること、また、高齢

者が安心して暮らせる住まいと生活に係る福祉サービス等の一体的な供給について、住生活の充実に向けたハード・ソフト両面の施策の充実を図ることが必要であると考えております。また、人口減少や世帯数の減少、厳しい雇用・所得環境を背景に新築住宅市場が転換期を迎え、他方で既存住宅流通市場は消費者の不安を解消するには不十分な状況にあることや、住宅困窮者が多様化するなかで公平かつ的確な住宅セーフティネットの確保を図っていくことが求められており、多様な居住ニーズに応える新築・既存住宅双方の住宅市場の整備や、住宅セーフティネットの構築のための施策の充実を図ることも重要であると考えております。

さらに、東日本大震災を受け、災害に強いまちづくりの観点から住宅の耐震化の推進はもちろんのこと、災害時の住宅確保など住宅被災者への支援について、今回の震災で浮かび上がった必要な施策を盛り込むこととしており、これらをポイントに計画の見直しを進めているところです。

沈下した県営住宅のジャッキアップ工事見学会開催

去る3月11日の東日本大震災により、本県でも、臨海部では津波被害、鹿行・県南地区では液状化被害などがあり、住宅の全壊が約2千6百棟、半壊が約1万8千棟、一部損壊にいたっては約15万棟に上る甚大な被害を受けました。

本県としましては、被災後直ちに避難者に対して公営住宅などのストックを活用しながら、応急仮設住宅の確保に努めました。その結果、県営住宅、約400戸をはじめとする2,300戸の住宅を確保し、他県からの被災者を含め住居の提供を行っているところです。

また、今回の震災における潮来市、神栖市の鹿行地区での液状化被害は本県でもはじめて経験するものであり、液状化により沈下した住宅の復旧工法の選定や地盤対策などについては、被災者はもとより本県としても対応に苦慮したところであります。

そのようななか、本県では潮来市日の出地区の「県営日の出住宅」において、被災者や建築関係者向けに液状化により沈下した集会所のジャッキアップ工事の見学会を実施し、技術的な情報を提供してまいりました。この見学会は、二日間実施し、延べ300名の参加があり、液状化被害に対する関心の高さをあらためて実感したところでございます。今後も、ホームページなどの情報媒体を活用しながら工法の選定や地盤対策など技術的な情報提供に努めていきたいと考えております。

県産材の需要拡大と木造住宅の供給促進

本県の県産材の需要拡大と木造住宅の供給促進を図るために、地域住宅産業活性化支援事業により地域における住宅供給の主体である大工・工務店等の地域住宅産業の活性化を支援しております。具体的には、長期優良住宅の普及促進を図るために大工などを対象とした講習会の開催や、木造住宅の住宅作品集により県産材による木造住宅の良さをPRすることで普及促進に努めているところです。

サービス付き高齢者向け住宅の確保

本年10月20日に施行された改正「高齢者の居住の安定確保に関する法律」(以下「高齢者住まい法」という)で、従来の「高齢者円滑入居賃貸住宅」、「高齢者専用賃貸住宅」、「適合高齢者専用賃貸住宅」が廃止され、新たに「サービス付き高齢者向け住宅」が創設されました。これは、基準に適合する住宅を県が登録し公表することで、情報を広く周知するとともに、良好な住宅の普及を促進しようとするものです。また、登録された住宅は、国の直接補助や税制優遇、低利融資などの支援措置が受けられます。

主な登録基準は、住戸面積やバリアフリー化などのハード面の基準に加え、生活相談など一定のサービスの提供を必須としたソフト面からなり、よりきめ細かな制度となりました。

本県では、この改正「高齢者住まい法」の施策などをもとに、住宅施策と福祉施策を連携させながら、高齢者の住まいに関する施策を総合的かつ計画的に展開させる「茨城県高齢者居住安定確保計画」の策定を進めており、高齢者が住みやすいまちづくりを目指しているところです。

地域の実情に応じた良好な住環境の確保を目指して

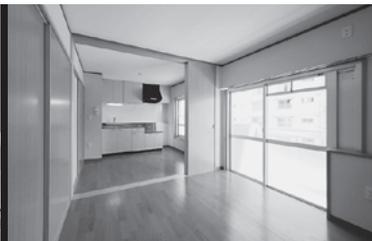
今回の東日本大震災を受け、住まいがいかにかに大事で、安全・安心なまちづくりがいかにかに重要であるかということあらためて認識したところでございます。

今後はこの震災の復興をはじめ、昨今の社会経済情勢の変化に対応しながら、地域の実情に応じた良好な住環境を実現するために、茨城の豊かな住まいづくりを進めなければならないと考えております。

そのためには、今回ご紹介した住宅施策を着実に進め、様々な課題の一つひとつ向き合いながら、市町村や関係団体など一体となって住宅行政に取り組んでまいります。



金沢アパート(住戸改善:老朽化した住戸をリニューアル)



滑川第2アパート(新設)

構造設計者のつぶやき

構造設計者が率直に語る、
東日本大震災の被災現場で「目にしたこと」「感じたこと」。

報告：斎藤 章（日本建築構造技術者協会茨城）

3月11日に発生した東日本大震災は、本県にも多くの建物に被害をもたらしました。

マグニチュード9.0、震度6強・6弱という巨大地震を体験した建築（構造）設計者が感じたことを、「構造設計者のつぶやき」として日本建築構造技術者協会（JSCA）茨城でまとめました。

建築設計に携わる者として、今回の地震で感じたことを記録にとどめ、同じ設計者や次世代を担う設計者に伝えたいという思いから本「つぶやき」は作成されています。

我々が設計するのは建物だけではなく「ひとの心」も「設計」している等、県内の設計者がそれぞれのありのままの「想い」を綴った文章の一部をお伝えします。

各文は平易な文章で表現されていますが、その裏にはそれぞれ深い「想い」があります。その「想い」はこれを読まれた方の「こころ」で続け、文章を完成させてください。

※全文は茨城県建築士会HPをご覧ください。

地盤について

●海や川に近い土地は昔の環境に留意し、埋め立て地であれば「液状化現象」に注意する。



また、土地の状況は地名や古地図などにて確認し、軟弱地盤であったと思われる土地にはそれなりの対策が必要。液状化対策や軟弱



復興への 一歩④

地盤・盛土の地盤沈下には多額の工事費がかかるが、建物の基礎を含めて建物周囲の地盤を改良することで多少被害をおさえられる。

木造建築物について

● 現行の設計基準にて設計した「土台は基礎に緊結する」住宅で、基礎コンクリート



にひびが入る被害があった。上屋の揺れによりアンカーボルトに大きな力が加わって破壊したものと思われる。家の中では筋交い周囲の壁のひび割れが多く、家具類の転倒が激しかった模様。しかしながら、近隣に建つ、基礎と一体となっていない土台や、筋交いを持たない工法で建てられた住宅（いわゆる在来軸組工法、伝統工法）は、土台のずれが認められるものの、家屋の被害は極めて少ない。このような被害傾向は他の場所でも確認された。地盤と一体となって地震の力を全て上部の建家に伝えてしまう耐震の考えと、地震力を基礎部分で低減し、建物全体で地震力に抵抗させようとする考えの違いであるが、地盤と基礎に緊結する現行基準によって建てられた木造建築物が、必ずしも在来の軸組工法に勝るものではないと思われる。むしろ、在来工法の優れた考えをもっと生かした基準の見直しを考えるべきである。『地震に強い建物』（剛構造）より『地震になじむ建物』（柔構造）を…

と指導していた専門家の言葉を思い出す。

- 基礎と上部を緊結する現行基準で建てられた木造建物は、基礎形状により被害



が異なるように思える。建物が建つ地盤の違いもあるが、おしなべて、「布基礎」で建てられた建物は「べた基礎」の建物より被害が大きい。「べた基礎」の建物では、瓦の落下も少なく建物の損傷が比較的小さいようである。

- 下見板張り外壁の建物は被害が小さかったようである。損傷部の補修も大げさでなく、建て主さんに感謝された。外壁の拘束力は想像以上に大きかったものと思われる。

鉄骨造建築物について

- 非構造材の天井が落下して営業を停止した店舗が多い。天井面積が大きく、天井吊り金物が長い場合は、斜材の設置だけでは不十分である。剛性の大きな吊り金物を使用したり、金物の実長をできるだけ短くし、天井を伸縮可能な目地材を使用して小さく区分けする、等の配慮をして落下を防止することを考慮すべきである（天井が高い店舗に入って天井を気にする客はほとんどいないのだから）。震災直後、被災した人は「食料の確保」に奔走する。特に幼児を抱える家庭には深刻であり、食品雑貨の販売の確保は重要であるが、天井材の落下によ



り、多くの店舗が1週間以上の休業（全休）となった。

- ヨーカン型平面の社員寮で、建物中央に設けた階段室の内装の損傷が大きかった。階段室の存在により建物の平面剛性が変化して「ねじれ」たことによる被害と思われる。吹き抜けや階段室等、剛性が変化するスペースを設ける位置には十分留意せねばならないと思われた。

鉄筋コンクリート造建築物について

- 耐震補強前建物では、コンクリート強度が小さい建物で被害が出ている。「建物



耐震判定指標値」の小さい建物でも、地盤や地震加力方向により被災の程度が違うが、コンクリート強度が比較的大きな建物の被害が少ないように思える。

- 雑壁等に発生したひび割れでも住人には大きな不安となる。ひび割れをできるだけおさえるためには、スリット目地等の考慮と「固い」コンクリートを打設する必要がある。設計時には水セメント比が小さい強度の高いコンクリートを考慮し、打設時のコンクリート品質には十分留意する必要がある。

- 現行基準前の建物であるが、スラブの厚さが面積に比べてかなり薄い構造となっていた。ヨーカン型の平面であったが、地震時に建物中央部分の揺れが大きかったようで、張間方向の建物中央部の壁にひび割れが多く発生した。各階床の水平剛性には十分留意せねばならないと感じる。

メッセージ入り縁台を 家族でつくって、 東北の地へ。

女性部「ラブアークセミナー」報告

「父の日 親父の出番」～みなさんの思いをかたちに
家族ふれあい縁台づくりに参加しよう」

報告：浜中 本子（女性部会副部長）



復興への
一歩 **5**

6月19日(日) みんなで縁台をつくりました。



木の店「樹輪（きりん）」で、仲間同士協力し合って夢中で作成しました。

今回のラブアークセミナーは、「木の文化塾」との
コラボレーションで、「縁台をつくって被災地へ送る」
というボランティア企画となりました。

6月19日(日)、ラブアークセミナーには31名が参加し、
合計56台の縁台を製作しました。さらに「木の文化塾」の
大子チームが100台、矢祭町商工会工業部会で100台製作し、
合わせて256台の縁台が完成しました。

「家族ふれあい縁台づくり」と銘打ったこともあり、
子供たちもたくさん参加してくれました。その活躍ぶりは
目をみはるほどで、親御さんから次のような感想を後日
いただいています。

「とくに子供たちは、被災地へ送るという目的があった
からでしょうか、その気合の入れ方は決して普段は見られ
ないもので、終わった後もその日はずいぶんと興奮して
いたようです」(県央支部 藤原由貴子)

「次男は、『誰が使うの？ どこに持っていくの？』と疑問
を投げかけ、主旨を理解していませんでした。が、後日、
仮設住宅の映像で、縁台が映されるのを見ると、『これ一
緒に作ったよね!』と家族みんなに教えていました」(ひた
なか支部 高橋琢)

自分の作ったものが、誰かの役に立っているという充
実感、一生懸命がんばった子供たち一人ひとりの心に刻
まれていることと思います。



高橋琢さん親子

藤原さん
ご主人とお嬢さん

最後の仕上げは
近藤さん

復興の願いをこめて最後にメッセージや色づけをしました

この一台一台が被災地の皆様の役に立ちますように

7月5日(火) 縁台を福島・宮城に運びました。



袋田と里美の住職とともに、やっと大徳寺に到着しました

完成した縁台を被災地へ運ぶ最初の日です。7月5日(火)、朝5時。女性部の市川さんご夫妻をはじめ、木の文化塾の菊池均さんを含めた10名が、トラック2台乗用車1台に分乗し、大子を出発。福島県新地町役場と宮城県登米市津山大徳寺に縁台約50台ずつを届けました。



仮設住宅近くの体育館に仮置きさせてもらいました



左から南三陸町の大徳寺住職、市川さんご夫妻

7月10日(日) 縁台を宮城に運びました。



気仙沼市民会館にて現地の事務局の方と写真撮影。市民会館の前では、未だに自衛隊の炊き出しや仮設お風呂の提供がなされていました

7月10日(日)、被災地へ送る第2弾です。この日は18人が参加して、トラック2台、乗用車3台に分乗。朝5時に日立南太田インターチェンジを出発して、宮城県気仙沼市立小泉中学校、気仙沼市民会館へと運びました。

途中、津波警報が出て一時待機という場面もありましたが、無事に届けることができました。往復で10時間以上運転をくださった市川さんご主人・花ヶ崎さんご主人、車を出してくださいました植田さん・市川さん、ありがとうございました。

みなさんの作った縁台は、とても喜んでいただいていることと思います。

復興はまだまだこれからです。被災地からの要望は、さまざまです。建築士会として、女性部として、今後も幅広い被災地支援活動に取り組み、活動の輪を広げていければと思っています。



木の文化塾を主催する菊池氏



小泉中学校の避難所でお会いした、大分県大牟田市のNPO法人の方。塩害にあった廃材で縁台を作りたいと思っていたところへ、私たちが縁台を持ってきていたので奇遇だと話していました

【家族ふれあい縁台づくり】 ●参加者(敬称略)——[行方支部] 金子雅代、金子徹、堀井優晟 [久慈支部] 市川三和子、市川浩之、根本恵美、根本拓和、花ヶ崎賀子、花ヶ崎巧 [ひたちなか支部] 浜中本子、浜中伸行、浜中里恵、浜中千佳、佐藤章一郎、佐藤由樹、高橋琢、高橋奏、木村和子、木村成孝、木村朱里 [県央支部] 藤原由貴子、藤原誠人、藤原大樹、藤原千穂子、加藤宣之、渡辺一馬、西宮知子、小林肇、松本喜代隆、柳下文江、(株)湯浅鯉淵 ●講師・キット製作、お楽しみくじ木工製品提供——近藤建具店 近藤芳久 ●場所提供——(株)湯浅「樹輪(きりん)」水戸市大串町174-2

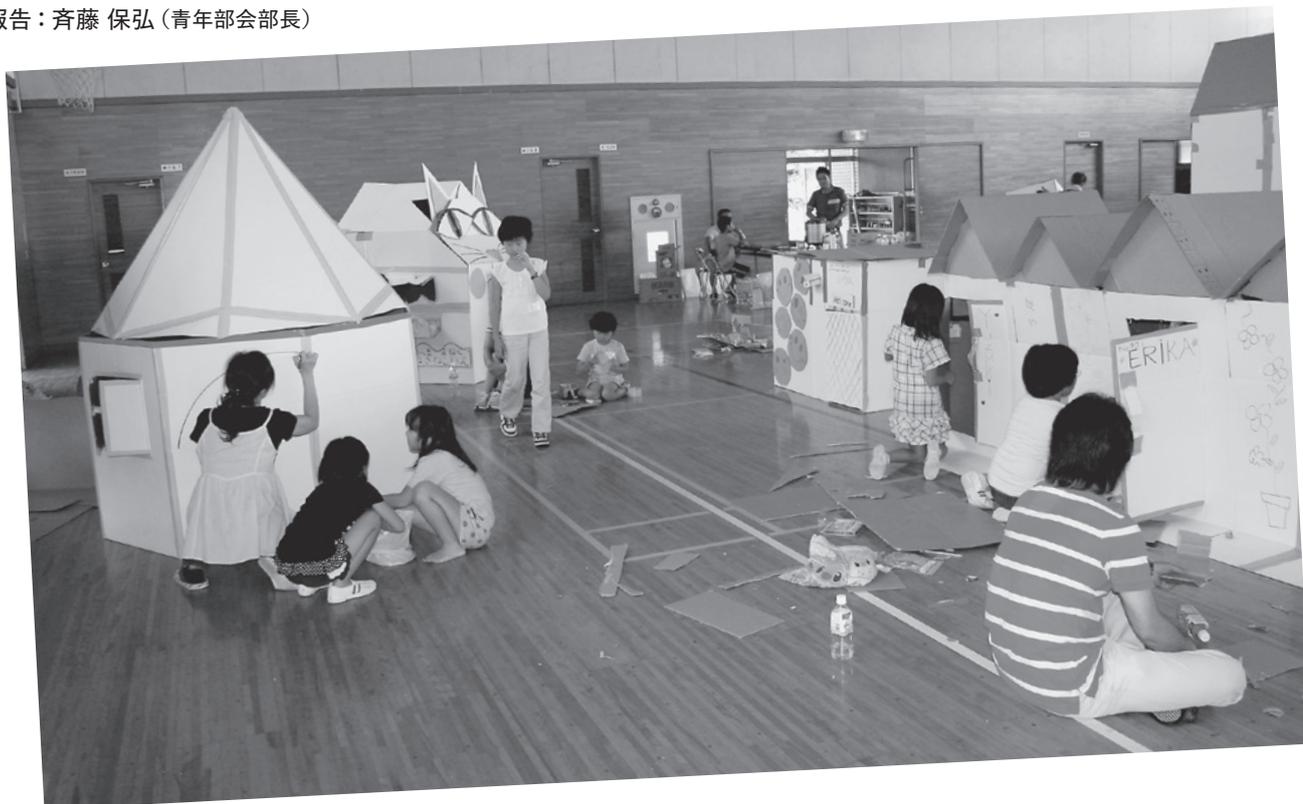
【被災地へ縁台を運ぶ】 ●参加者(敬称略)——7月5日(火)[久慈支部] 菊池均、市川三和子、市川浩之 / 7月10日(日)[久慈支部] 菊池均、市川三和子、市川浩之、花ヶ崎賀子、花ヶ崎巧、花ヶ崎泰地、花ヶ崎風哉、植田笑子、梶ひろみ [県央支部] 柳下文江 [ひたちなか支部] 浜中本子

「段ボールハウス」が 子どもたちの未来にもたすもの

報告：斉藤 保弘（青年部会部長）



復興への
一歩 ⑥



平成23年8月27日(土)、結城市立山川小学校の体育館にて、疑似避難所生活体験「段ボールハウスを作ろう」を開催しました。

青年部会設立30周年記念事業として初めて開催し、今回で3回目を迎えることとなるこの事業、今年度は結城支部より出向していただいている林副部長に実行委員長になっていただき、開催いたしました。

当日は、夏休み最後の週で土曜日ということもあり、どのような参加状況になるかと危惧しておりましたが、子どもたちは45人、保護者の方25人、総勢70人の参加者のもと、開催することができました。

はじめに子どもたちには「完成予想図」(設計図)を書いてもらいました。様々な完成予想図を見るといつも、子どもたちの奇抜な発想に驚かされます。その後段ボールに線を引き、カッターや定規での切断作業、ガムテープを使用しての組立作業と、壁を立ち上げるまでは順調に作ることができるのですが、屋根を作るときにはとても苦勞している様子で、汗だくになっている子どもたちの姿が印象的でした。

開始から約3時間後、子どもたちはそれぞれ素晴らしい段ボールハウスを完成させてくれました。完成予想図と同じように作れた子どもたちもいれば、まったく違

うものを作る子どもたちもいました。それぞれの想いを込めた段ボールハウスを前に完成後の記念撮影やハウスの説明。ここでも子どもたちの発想力に脱帽です！保護者や青年部メンバーに手伝ってもらいながらですが、素晴らしい発想力、想像力で段ボールハウスを作ってくれました。3月におきた東北地方太平洋沖地震が記憶に新しいなか、停電や断水を経験した子どもたちも多く、その経験が反映されたものもありました。

この事業を通して、今後また来るかもしれない「災害」に対しても、子どもたちはたくましく元気に対処してくれるのではないかと感じました。

最後になりますが、この事業に際しまして、準備・運営に当たられた林副部長をはじめ県西ブロックの皆様、協力していただいた青年部会メンバー、そしてOBの方々、事務局に感謝を申し上げ、報告いたします。



個性ある素敵な家がたくさんできました！

士会会員として長きにわたり活躍されてきた先輩方を訪問し、お話を伺うコーナー。第15回となる今回は、昭和49年入会の山田 博通氏と、昭和41年入会の三上 昭紀氏を訪問し話を伺いました。



「建築士の職能とは、建築を通じて社会に貢献すること」

山田 博通 氏 (県央支部)

昭和15年生まれ/昭和49年入会/会員歴37年

【主な経歴】昭和37年に(株)熊谷組に入社。昭和38年から広島支店建築部へ配属となり、工事所長として昭和49年まで勤務。同年9月、水戸市に戻り桜設計事務所を設立、現在に至る。社名の“桜”は、母校日大の校章と当時の事務所の近くにあった桜川、桜山にちなんで名付けた。

平成14年から20年まで、茨城県建築士事務所協会副会長を務める。平成17年には国土交通大臣表彰等を、平成19年には黄綬褒章を受章。実直な人柄、ゆるぎない信念の持ち主として知られ、今も厚い信頼を集める先輩会員。

——建築家としての信条を教えてください。

建築家は施主と施工者双方の利益を守る第三者的立場。とことん話し合っただけで納得し、協力し合っただけこそ良い建築が生まれると考えます。

——生活面で信条としていることは？

「努力・誠意・自然体」。何ごとにも努力し、誠意を尽くし、その結果を静かに待つことです。

——後輩へのメッセージをお願いします。

健康のために「無理をしないこと」は誰でも知っているが、「楽をしないこと」を忘れないように。私自身、いつも自分にいい聞かせている言葉です。



「施主、施工者、設計者が正三角形の関係にあるように」

三上 昭紀 氏 (県央支部)

昭和17年生まれ/昭和41年入会/会員歴45年

【主な経歴】昭和17年、満州国錦州省にて、医者であった父の次男として生まれる。敗戦直後の昭和21年、父の実家の青森県に引揚げたが、母が入院し、祖父母と実家の農業の手伝いをして生活。一時進学を諦めたが、地元の中学を卒業し県立弘前工業高校建築科へ入学。卒業後、茨城県庁へ入り建築課へ配属される。在職中に2級建築士の資格を取得。昭和44年に退職し、知人と2人で石岡市内に設計事務所を開設、3年後の47年に水戸市内に移転し、昭和54年に現在の地に事務所と住居を構えた。冷静で穏やかな佇まいのなかにも、熱いスピリットを感じさせる努力と情熱の人。

——建築家としての信条を教えてください。

施主、施工者、設計者の関係が、常に正三角形の状態で行うこと。二本脚では転倒してしまう。三者均等のバランスが重要だと思っています。

——これからやってみたいことはありますか？

旅することが趣味で、時間があれば出かけて楽しんでいます。今後、ピサの斜塔とナイアガラの滝にはぜひ行ってみたい。また、今年の7月に(株)水戸市勤労者福祉サービスセンターの理事長に就任しました。勤労者の福祉向上と、中小企業の振興のため、役に立てればと思っています。モットーは、「一人が皆のために、皆が一人のために」です。

つくば市葛城地区公園管理棟

緑を鮮やかに引き立てながら、静かな背景となる。
無機と有機が溶け合う「つくばスタイル」の具現



つくば市最大の未来都市構想地区
敷地のあるこの地区は、将来計画人口25,000人のつくば市最大の未来都市構想となっている。つくばエクスプレス「研究学園駅」南側の葛城地区公園内北側に位置し、行政ゾーン、商業ゾーンからのアクセスも容易な場である。葛城地区は、現在、つくば市新庁舎や大規模なショッピングセンター、マンション、戸建住宅などの建設が進められている。地区公園内には、既存林を生かした緑地や芝生広場、ピオトープ、移築した古民家、有料駐車場等の施設が既に建設されてきている。今回計画される管理棟は、公園全体の管理事務所として電気設備監視システムや公衆便所、休憩室といった機能を与えられた。

本計画は、公衆便所、管理休憩室の施設から成る二つのブロックを建築として機能させる動線計画を提案すると共に、計画建物の南側に配置された芝生広場と一体化するデッキを設けることでイベント等の場としても利用可能である。

管理休憩室内部の壁は、コンクリート打ち放し仕上の無機質な空間との対比として、吸音と掲示を兼ねたベンガラ色の有孔木板を設け、展示の背景となるよう意図した。床はコンクリートのサンドブラストを施し、素材感を重視したユニバーサルデザインとした。

環境負荷軽減にも最大限配慮

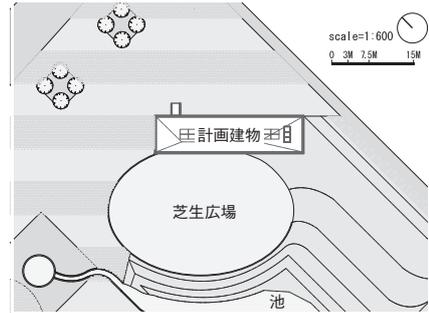
環境面への配慮としては、南側に大きく迫出した庇による夏場の直射日光の遮断、南側全面開口か

ら冬場の日射の取込みを行うことで環境負荷を軽減している。また、南側と北側に開口部を設けることで通風のよい空間とした。さらに、屋根には太陽光パネルを設置し、公園に訪れた子供たちにも興味を持ってもらえるよう、休憩室には発熱量表示板を設置している。

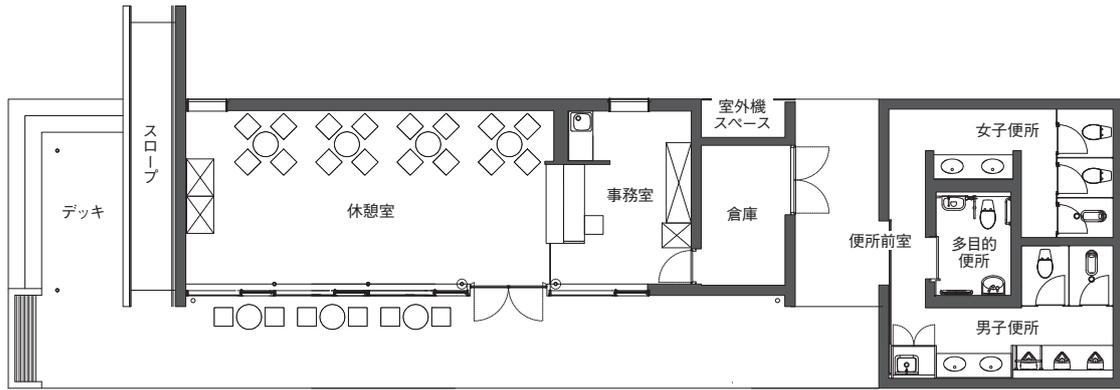
また、つくばの伝統的集落に見られる瓦屋根、白壁、黒塀、低い軒が連なる集落が筑波山の前景として美しい景観を創出していることを参照し、園外からの視点では、緑の前景として緑をより鮮やかに映し出し、園内からの視点では、背景として存在感を消すことができる瓦色に近い黒色を外壁タイル色とすることで、「つくばスタイル」にふさわしい景観へ配慮した外観とした。

つくば市葛城地区公園管理棟

主要用途 公園管理棟・公衆便所
 敷地面積 73,271.3㎡
 延床面積 182.25㎡
 建築面積 155.12㎡
 構造・規模 RC造・平屋建
 竣工 2010年3月
 設計・監理 (株)河野正博建築設計事務所
 構造設計・監理 小林建築構造設計室
 施工者 高塚建設工業(株)



配置図



平面図



北側からの外観



西側からの外観(夜景)



トイレ入り口のサイン



休憩室

茨城県建築士会・茨城県建築士事務所協会 合同開催

大納涼会

平成23年7月22日(金)17:00～

水戸市・ホテル テラス ザ ガーデン 水戸

開催される!



夏の恒例行事となった大納涼会が7月22日(金)、ホテルテラスザガーデン水戸において開催された。昨年度までは建築士会が単独で開催していたが、本年度は友好団体である茨城県建築士事務所協会との初の合同開催となった。今回の参加者は来賓、会員、賛助会員、建築士事務所協会からの参加者を含めて188名に上った。

司会者の進行により会は進められ、両会を代表として、本会柴会長から、3月11日に発生した東日本大震災では、自らが被災者であるにもかかわらず、また、ガソリン不足等混乱する中、県内における被災地での応急危険度判定活動に民間判定士として両会から多くの会員の方が行政との活動に協力していただいたこと、その後も被災者の住宅相談、市町村の罹災証明等の活動にも参加していただき大変ありがたく思います、など

感謝の意が述べられた。また、震災復興に向けた新たな振興策も予想されるが、建築業界は厳しい状況におかれており、我々を取り巻く環境は依然として険しいこと、この状況を打開するためにも、皆で方策を考えていきたい、など今後に向けての抱負が述べられた。

来賓挨拶では、6月に水戸市長に就任された、建築士会顧問でもある高橋靖氏、茨城県議会議員の海野透氏、同 石川多聞氏、同 白田信夫氏、同 田所嘉徳氏、同 西野一氏より祝辞をいただいた。

その後、共催者である茨城県建築士事務所協会の横須賀会長から乾杯の発声があり、祝宴に入った。本年も、来賓及び、賛助会員の方々とこのような交流は有意義なものとなった。

祝宴は盛況のうちに進み、賛助会の山崎代表幹事の中締めにより会は終了した。



高橋 靖 水戸市長



海野 透 県議会議員



石川 多聞 県議会議員



白田 信夫 県議会議員



田所 嘉徳 県議会議員



西野 一 県議会議員



横須賀 満夫
茨城県建築士事務所協会会長



柴 和伸 本会会長

式次第
開会の言葉
主催者あいさつ
来賓あいさつ
来賓紹介
乾杯
中締め



「いろいろな方との交流がはかれて、楽しく有意義な時間が過ごせます！」



「そちらの地域の復興状況はどうですか」



「合同開催はよいアイデアだと思います！」



第21回チャリティーゴルフ大会開催される

平成23年6月21日(火)

笠間市・富士カントリー笠間倶楽部

チャリティーと会員の親睦を目的とした恒例行事「チャリティーゴルフ大会」が、6月21日(火)、笠間市・富士カントリー笠間倶楽部において開催されました。当日は天候にも恵まれ、各支部から正会員、賛助会員入り混じっての89名が参加。全18ホール、新ペリア方式で熱戦が繰り広げられました。結果は、「個人の部」ではつくば支部の染野英夫氏が、「女子の部」では3年連続で市毛啓子氏が、「団体の部」では県央支部Aが、それぞれ優勝に輝きました。

プレー終了後は、懇親会を兼ねた表彰式が倶楽部内レストランにおいて開催され、主催者の武村副会長挨拶の後、当日集められたチャリティー金20万円が社会福祉法人つくば根学園に寄付されました。参加者全員で乾杯の後、ニアピン賞、ドラコン賞、団体賞、各個人賞の発表が行われ、パーティは終了しました。

個人の部		
優勝	染野 英夫 (つくば支部)	ネット71.2
準優勝	石井 明 (県央支部)	ネット72.2
3位	鈴木 章 (賛助会)	ネット72.4
バスグロ	石井 明 (県央支部)	グロス77

団体の部		計
優勝	県央A	グロス322.0
準優勝	北相馬	グロス350.0
3位	県庁A	グロス369.0
3位	土浦	グロス369.0
5位	筑西	グロス370.0



武村副会長よりチャリティー金を贈呈



アテスト会場の様子



大接戦を制して県央支部Aチームが優勝！ 第35回青年部ソフトボール大会（県大会）

平成23年9月18日(日)、笠松運動公園にて、第35回青年部ソフトボール大会（県大会）が開催されました。

残暑も厳しいなか、皆さん、本当にお疲れさまでした。

県内各地域の予選を勝ち抜いた総勢7チームによるトーナメントで、伯仲した熱戦が展開されました。各チームとも精一杯力を出しきれたのではないのでしょうか。

今大会の優勝は、選手層の厚い県央支部Aチームです。決勝戦では、接戦の末、みごと優勝の栄冠を勝ち取りました。県央支部Aチームの皆さん、おめでとうございます。お忙しいところ各支部から参加していただいた皆さん、ありがとうございました。来年の36回大会でも、また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

最後になりますが、大会準備をされた県央支部の皆さん、また、協賛いただいたセンター印刷(株)様、(財)経済調査会様、明治安田生命保険(相)様、(財)茨城県建築センター様、協力していただいた方々、選手、事務局の皆さんに感謝申し上げ、青年部ソフトボール大会（県大会）の報告とさせていただきます。

[大会成績]

【優勝】県央支部Aチーム 【準優勝】JR水戸支部
【第3位】県央支部Bチーム 【第4位】古河さしま支部



「来年は優勝をしますよ！」



優勝した県央支部Aチームの皆さん

—住みよい家造り—



(有) 石坂工務店 石坂一級建築士事務所

代表取締役
一級建築士 石坂 健一

〒300-0061
茨城県土浦市並木二丁目3-7
事務所 電話 029(823)8209(代)
FAX 029(821)3589
<http://www.ishizaka-koumuten.jp>



株式会社 市毛建築設計事務所

代表取締役 市毛 純一

〒311-4152 水戸市河和田2丁目2190-7
TEL 029 (253) 1331 / FAX 029 (253) 3511
E-mail : j-ichige@sunshine.ne.jp

木造住宅耐震補強の決定版 ◎ (財)日本建築防災協会の技術評価を取得

「ウッドピタ」には証拠がある。

3.11 東日本大震災でも耐震性能が実証されました。

◎外付け施工

工事中は普段通りの生活でOK

◎開口部での補強が可能

窓を塞がず補強ができ、通風・採光を確保

◎強力な耐震性能

震度6強の揺れに耐える補強が可能

◎信頼の実績

鉄道駅舎や郵便局などの公共施設でも採用

「ウッドピタ」は耐震改修助成制度を実施している全国多くの自治体で、補助金対象工法です。

【お問い合わせ・資料請求】

矢作建設
グループ  株式会社ウッドピタ
東京支店・ショールーム：東京都中央区湊2-2-5

ウッドピタ
www.woodpita.co.jp

〈24時間受付〉
 **0120-260-220**



フレームタイプ

(社)茨城県建築士会 常任理事 常総支部長
(社)茨城県建築士事務所協会員

岡田建築設計事務所

一級建築士 岡田 一夫

〒300-2716 茨城県常総市大房16番地
E-mail : k-okada@eagle.ocn.ne.jp TEL 0297-42-4072 FAX 0297-38-4725

建築設計事務所
K 菊池設計工房

一級建築士
一級建築施工管理技士

TSUMORU

主宰 菊池 積

〒317-0061 日立市東町2-1-10
TEL・FAX 0294(21)0223



eco.IBARAKI 茨城工事業所AAA

「人と人をつなぐ空間作り」

21.5世紀の水戸空間を創る

株式会社 関根工務店



代表取締役 関根 弘 ISO9001認証取得

本社：茨城県水戸市常磐町2-3-17 Tel. 029-221-4789 E-mail: info@sekine-cs.jp
つくば営業所：つくば市梅園2-23-29 Tel. 029-855-4566 <http://www.sekine-cs.jp>



TAKATSUKI

(有)高槻建築設計事務所

〒310-0804 水戸市白梅2丁目9番20号
TEL 029-231-8461
FAX 029-231-8594
E-mail ZVD06303@nifty.ne.jp
<http://homepage3.nifty.com/takatsuki/>

身体に優しい居住環境を考える

建築設計監理. 建築確認. 開発行為. 官公庁許認可代行

武村建築設計事務所

代表 武村 実

office 茨城県桜川市真壁町古城301-1
TEL 0296(54)2023 携帯 090-3319-4374 FAX 0296(54)2023
home 茨城県桜川市真壁町田1301番地4
URL <http://homepage2.nifty.com/arctake/> E-mail arctake@nifty.com

豊かさへのかけはし



品質保証の国際規格 ISO 9001 認証登録

ISO9001認証登録



JQA-QM5986

総合建設業 多賀土木株式会社

代表取締役社長 松山 昭彦

本社 / 日立市東多賀町 2-2-3

TEL 0294(36)0111

FAX 0294(32)0040

高萩営業所・ひたちなか出張所

建築を息づかせるもの

建築は、

- その存在を象徴するロゴやシンボルマーク
- 空間構成の伝達や導線を担うサインシステム
- そこでの活動を効果的に伝える各種メディア

などを得ることにより息づきはじめると私たちは考えます。

「わかりやすく、魅力的に」をモットーに。

私たちの仕事は、人と建築を結びます。



HIRAI INFO-DESIGN STUDIO
Consultants in Visual Communication

有限会社

平井情報デザイン室

茨城県水戸市笠原町600-17

朝日ビル206 〒310-0852

TEL 029-291-5899 [担当: 平井]

FAX 029-305-5257

n.hirai@info-design.co.jp



「結城市民情報センター」
設計・監理＝三上建築事務所

*施設名ロゴおよびサインシステム制作、
各種パンフレット制作、WEBサイト構築・
運営など



「お菓子夢工場」
設計・監理＝株式会社イオ・プランニング

*施設名ロゴおよび各種パンフレット、
ショッピングバッグデザイン制作



「グランステージ山新」
設計・監理＝株式会社イオ・プランニング

*施設名ロゴ制作



「エスティコンサルティング本社ビル」
設計・監理＝株式会社イオ・プランニング

*社名ロゴおよびサインデザイン制作、
会社案内パンフレット制作



ガスと太陽光発電で天候に左右されないダブル発電

ENE・FARM + 太陽光発電

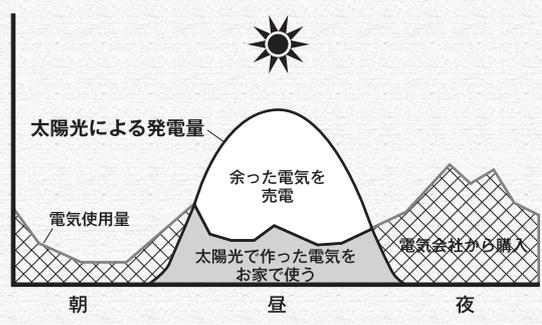
エネファーム



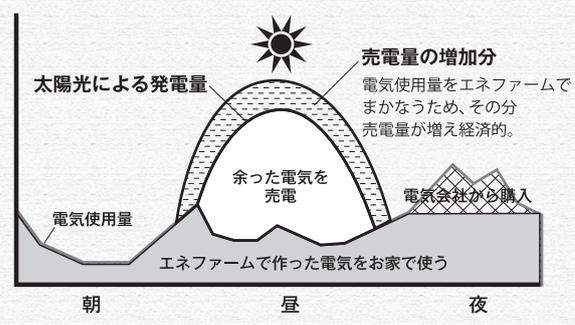
ダブル発電は「創る」「使う」「売る」

ダブル発電はエネファームと太陽光発電を組み合わせ、2つの方法で電気を作ります。
 この2つを組み合わせると経済性や環境性がさらにアップします。
 エネファームで発電された電気は、太陽光で発電された電気よりも優先的に消費されるので、
 売電量がアップします。
 さらに排熱を利用してお湯を作り CO₂ も削減する、環境にも経済的にも
 ダブルに優しいシステムです。

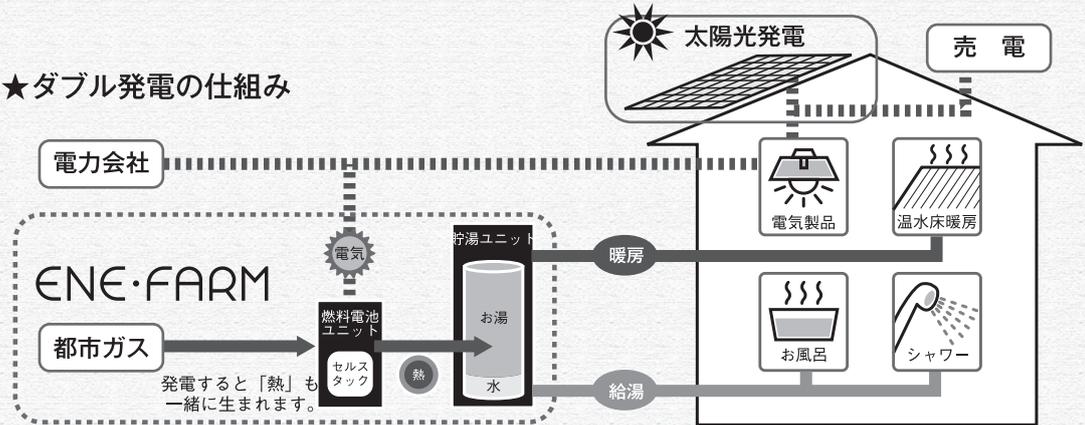
太陽光発電システムを設置した場合



エネファーム + 太陽光発電のダブル発電の場合



★ダブル発電の仕組み



※掲載図はイメージです。

茨城県ガス協会

- | | |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 筑波学園ガス株式会社 リビング営業部
つくば市研究学園 D35 街区 5 TEL.029-848-5151 | 東部ガス株式会社 茨城支社
水戸市宮町 2-8-14 TEL.029-231-2241 |
| 東京ガス株式会社 常総支社
龍ヶ崎市馴馬町 2517 TEL.0297-62-2807 | 東部ガス株式会社 茨城南支社
土浦市有明町 2-49 TEL.029-821-1107 |
| 東京ガス株式会社 日立支社
日立市幸町 1-22-2 TEL.0294-22-4131 | 東部ガス株式会社 守谷事業所
守谷市中央 1-8-4 TEL.0297-48-1354 |
| 東日本ガス株式会社 リビング営業部
取手市井野 32 番地 TEL.0297-72-3165 | 美浦ガス株式会社 営業課
稲敷郡美浦村興津 1299-3 TEL.029-885-1221 |

待望の新型発売!!

バイオクリーン

検索

詳しくは Web で!!

バイオクリーンシステムⅣ

バイオクリーンシステムが新しくなりました!

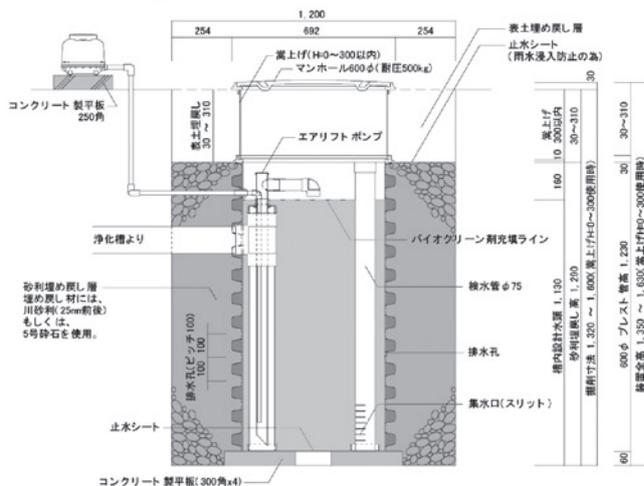
システムⅣ 5つのポイント

- より強く
 >>> 構造体には土圧に強い有孔プレスト管を新たに採用。
 円筒形なので周囲の土圧に均等に対抗します。
- より速く
 >>> 現場での加工時間が減り、施工時間も大幅短縮。
 5・7人槽兼用タイプで約半日で施工完了OK!!
- より綺麗に
 >>> 従来のバイオクリーン剤に、水の浄化で定評のある
 牡蛎(カキ)殻※1を特殊加工したものを混入。
- よりシンプルに
 >>> 槽内には、バイオクリーン剤のほかに検水管と
 エアリフトポンプだけというシンプルさ(エアリフト仕様)
- よりコンパクトに
 >>> 5・7人槽用(標準仕様)で装置全高1,350mm。
 10人槽用以上では1,750mmを実現。(最低寸法)

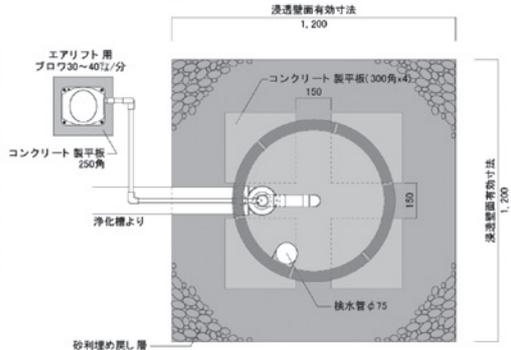


※1 牡蛎殻の効果(宮城県南三陸産)

- ① 酸性水の中和(PH調整)機能
- ② 主成分(炭酸カルシウム)による
 汚れの吸着・分解



◀システムⅣ 5・7人槽用 参考図▶



株式会社バイオクリーン
 本社：栃木県宇都宮市海道町 851-3
 TEL：028-660-8022 FAX：028-660-8033
 E-mail：info@bio-clean.co.jp

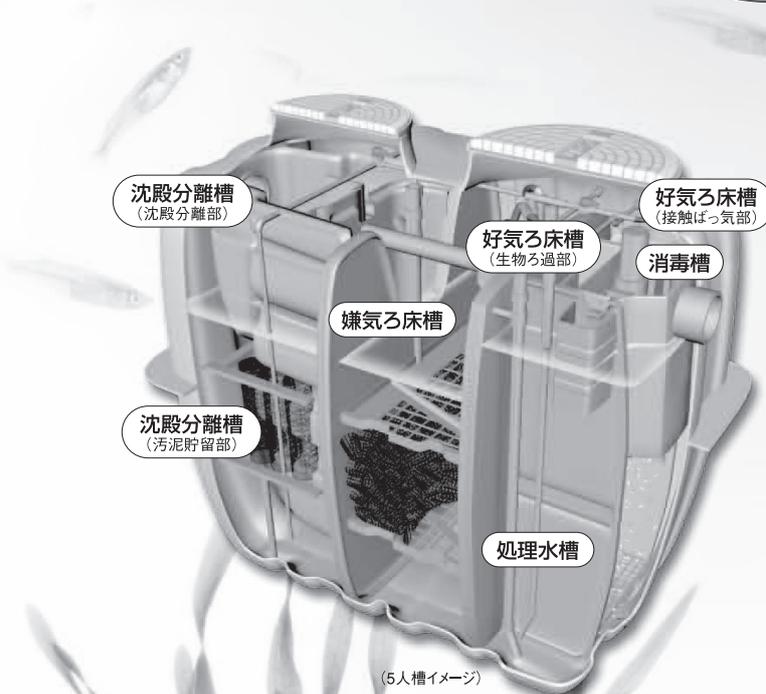
茨城営業所：茨城県つくば市金田 1992-3
 TEL：029-850-6885 FAX：029-850-6886
 URL：http://www.bio-clean.co.jp

次世代環境配慮型浄化槽 フジクリーン CF型

少ない資源とエネルギーで水環境を守る



沈殿分離・嫌気ろ床・好気循環方式 **5・7・10人槽**



放流水質
 BOD **15**mg/l 以下
 S S **10**mg/l 以下
 T-N **20**mg/l 以下
(財)日本建築センターによる性能評価値
 ●高度処理規制地域対応

※BOD15mg/l 以下は下水道放流水質基準と同程度です。

既設浄化槽からの転換もスムーズ!!

<p>省スペース・浅埋型 (高さを1,570mmに統一)</p>	<p>レイアウトフリー (槽内落差50mm)</p>	<p>施工性アップ (残土処分量は約3割減少)</p>	<p>信頼の高機能プロフ (環境省の省エネ基準をクリア)</p> <p>タイマ付プロフ</p>
---------------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------------	------------------------------------------------------------

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社

茨城県地区販売会社
株式会社フジクリーン茨城

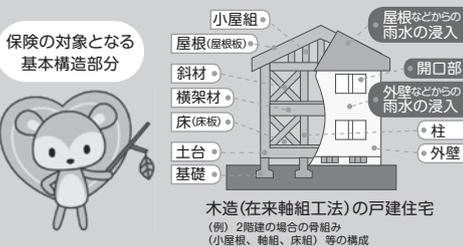
茨城営業所／茨城県つくば市上横場字細田 2573-89 〒305-0854
 TEL : 029-839-2271 FAX : 029-839-2270
 本社／名古屋支店・営業所／全国43ヶ所
<http://www.fujiclean.co.jp/>

〒311-4164 水戸市谷津町細田1-21 水戸西流通センター内
 TEL : 029-254-7777 FAX : 029-254-7778
<http://www.10.ocn.ne.jp/~fci-home>

住宅瑕疵担保履行法に対応した保険が、 住宅瑕疵担保責任保険法人 財団法人住宅保証機構の まもりすまい保険です！

まもりすまい保険は、 安心のすまいをお手伝い

新築住宅のお引渡しから10年間に品確法[※]で定められた基本構造部分（構造耐力上主要な部分と雨水の浸入を防止する部分）瑕疵（欠陥）が発見された場合、住宅事業者が負担する補修費用等に対して保険金が支払われます。



※品確法…住宅品質確保法



安心住まいの新しい法律 住宅瑕疵担保履行法

もしも、新築住宅の基本構造部分に瑕疵が発見され、「住宅瑕疵担保履行法」により資力確保措置義務の対象となっている住宅事業者[※]が倒産した場合には、住宅取得者のみなさまは直接に補修費用等の支払いを受けられます。また、住宅事業者とのトラブルの際には専門の紛争処理機関が利用できます。

※住宅事業者…建設業者・宅地建物取引業者



工事中に 現場検査を実施します

「まもりすまい保険」では設計施工基準を定めています。また、保険に加入される住宅は、この基準に基づき、工事中に専門の検査員（建築士）による現場検査が行われます。



ご契約までには、 保険内容の確認を忘れずに！

「まもりすまい保険」の申込手続きは、住宅事業者が行います。住宅取得者のみなさまは、注文住宅の場合は請負契約時に、分譲住宅の場合は売買契約時に、保険の内容を確認し、引渡し時には保険付保証書を忘れずに受け取ってください。

お問い合わせは

保険取次店

財団法人 茨城県建築センター

茨城県水戸市笠原町978-30 〒310-0852
TEL.029-305-7300(代) FAX.029-305-7310
<http://www.ibakenju.or.jp/>

国土交通大臣指定・住宅瑕疵担保責任保険法人

財団法人 住宅保証機構

<http://www.how.or.jp>

〈本部〉東京都港区芝5-29-14 田町日エビル
tel.03-6435-4690 fax.03-3454-2422
〈支所〉大阪府大阪市中央区淡路町1-2-5 イーストビル7階
tel.06-6228-7666 fax.06-6228-7667



建築と住まいのことなら!

財団法人 茨城県建築センター

住まいづくりに関する手続きを一元的に扱っています。
迅速な対応とともに、サービスの提供として次のことを行っています。

☆ 当センターのご利用の多いユーザーには

『建築確認手数料の後納制度』があります。

☆ 『レターパック等にて確認申請』を受付けております。

確認引受書と併せて新しいレターパックを返却させていただきます。

1 建築確認・検査業務

業務の範囲

- 全ての建築物の確認、中間検査及び完了検査
- 建築設備の確認及び完了検査
- 工作物の確認及び完了検査

完了検査率アップ!
検査済証は適法建築物の証です。

2 住宅瑕疵担保責任保険業務

- まもりすまい保険 (統括事務機関) 財住宅保証機構
- あんしん住宅瑕疵保険 (取次店) ㈱住宅あんしん保証
- JIOわが家の保険 (取次店) ㈱日本住宅保証検査機構
- ハウスプラスすまい保険 (取次店) ハウスプラス住宅保証㈱

3 証券化支援事業業務



- 住宅金融支援機構の融資住宅による設計審査・現場審査業務

4 住宅性能評価業務

住宅性能評価制度のメリット

- 住宅の性能の相互比較が出来ます
- 設計どおりの施工がされるよう第3者機関 (当センター等) による検査が受けられます
- 円滑・迅速で専門的な紛争処理が受けられます

5 長期優良住宅の認定に係る審査業務

- 長期優良住宅建築計画の技術的審査業務

6 構造計算適合判定業務

- 全ての建築物の適合判定業務

7 住宅・建築の相談業務

- 住宅・建築に関する相談のできるコーナーを本部及び県南事務所に設けています
- 毎週第1・第3土曜日10:00~16:00(12:00~13:00 昼休み)

8 エコポイント対象住宅 証明発行業務



<http://www.ibakenju.or.jp/>



本部・県南・県西事務所のいずれも
直接受付・確認いたします。

営業時間 / 平日の9:00から18:00まで
(第1・第3土曜日も営業しています。)

■本部事務所 (水戸市)
〒310-0852 茨城県水戸市笠原町978-30

TEL.029-305-7300 FAX.7310

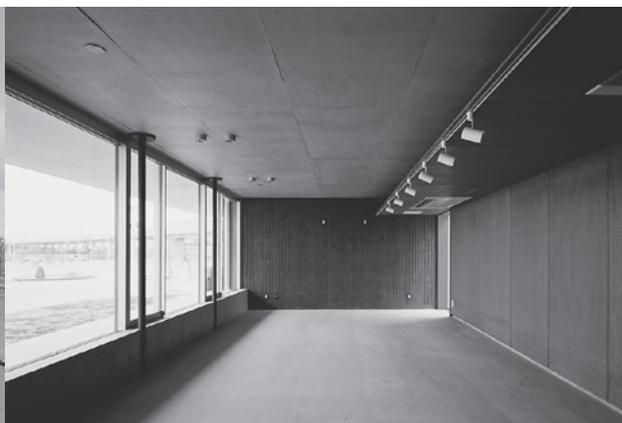
■県南事務所 (つくば市)
〒305-0035 茨城県つくば市松代1-18-1

TEL.029-860-8088 FAX.8090

■県西事務所 (古河市)
〒306-0126 茨城県古河市諸川1064-1 三友ビル5階

TEL.0280-75-2600 FAX.2603

つくば市葛城地区公園管理棟
(研究学園駅前公園)



株式会社 河野正博建築設計事務所

〒305-0817
つくば市研究学園D12街区6画地 D12-510
TEL 029-861-8847 FAX 029-861-8848
<http://www16.ocn.ne.jp/~kono-arc/>
E-mail:m-kouno@jasmine.ocn.ne.jp





設計 & 監理

株式会社 柴 建築設計事務所

水戸市泉町3-1-28 第二中央ビル7階

TEL.029-227-0222[代]

FAX.029-231-0960



つくば市葛城地区公園管理棟



社団法人
茨城県建築士会

<http://homepage1.nifty.com/ishikai/>